

特集 深谷市が取り組むアグリテックの集積

アグリテック交流施設

アグリ:code22深谷

本住町3-3 ☎080-3439-3591
営業時間：午前10時～午後6時（平日のみ）

アグリテック企業や生産者、農業関係団体、学生、研究者などが気軽に訪れ、マッチングやイノベーションが生み出されることで、アグリテック企業が深谷市に集積するきっかけとなる拠点で、アグリテックに関する情報と人のハブ（中心）となる場所です。

農業に関する『よろず相談窓口』

農家さんの経営や販路確保、人手不足などのお悩み、アグリテック企業の製品に関する情報収集方法など、『誰に』聞いていいかわからないお困りごとなどをお聞きして、他の農家さんや企業とのマッチングなどの支援をさせていただきます。お気軽にご相談ください。

アグリ:code22深谷
コーディネーター
アクバル まゆみさん

アグリ:code22深谷
公式LINE

勉強会やイベント情報の受信、施設カレンダーからイベント開催日を確認できるほか、トークを利用して簡単な相談ができます。



アグリ:code22深谷の取り組み
情報交換やマッチングをサポート

アグリテック企業と農家の皆さんが集まり、最新のアグリテック製品やサービスに関する紹介や情報交換などができる場を定期的で開催しています。情報交換をきっかけに、マッチングにつながる場合もあります。



アグリテックアワード2025のファイナリスト『株式会社きゅうりトマトなすび』から生成AIを活用したアグリテックが紹介されました。

勉強会やイベントを開催

農業経営の基盤となる事業計画の立て方や、経営計画・中期事業計画の立て方について、事例を交えて実践的に学べる『農業経営勉強会』を開催し、農家の皆さんを支援しています。



市内の『小池勝次郎商店』の小池氏が講師を務め、全5回の勉強会を開催し、参加者は自身の経営を見つめ直しました。

問題を解決し、農業の未来をつくる技術や知識が、深谷市に着実に集まっています。

深谷市は、農業を次世代に引き継ぐためには、他産業の発展において蓄積された知識や磨かれた技術を活用・融合し、アグリテックを生み出し、農業の生産性と価値を高めることが必要だと考えています。

次世代に引き継ぐ、持続可能な農業の実現に向け、アグリテックアワードなどの取り組みを行うことで、アグリテックやアグリテック企業の集積化を推進し、深谷市さらには日本の農業の未来をつくります。

※DEEP VALLEYは米国にあるIT技術の集積地域『シリコンバレー』をイメージし、『深谷』とかけ、深い(DEEP)谷(VALLEY)を英訳した愛称。

ご活用ください
対象拡大
深谷市アグリテック
導入支援事業補助金

AIなどの最新技術やロボット技術を活用したアグリテックを推進するため、農業機械などの導入に対する経費の一部を補助します。

令和7年4月から資材購入費を補助対象として追加しました。

補助額など

機器費、整備費	補助率＝2分の1（上限50万円）
使用料、賃借料、サービス料	補助率＝2分の1（上限20万円）
資材購入費	補助率＝2分の1（上限50万円）

※資材購入費に関しては、対象となるための条件がいくつかあります。補助対象など、詳しくは公式ホームページ『DEEP VALLEY』（右記QRコードからアクセス）でご確認ください。



農業を次世代に引き継ぐ
深谷市が取り組む
アグリテックの集積

深谷市では、市の強みである『農業』を次世代に引き継ぎ、持続可能な農業の実現に向け、農業課題を解決する技術（アグリテック）やその技術を持つ企業に取組んでいます。

図産業ブランド推進室（☎577-3819）

深谷市を農業の未来が集まる場所へ

深谷市では、農業の担い手不足や高齢化、気候変動、肥料・農薬コストの上昇などのさまざまな『農業課題』を解決し、持続可能な農業を実現するため、令和元年6月に『DEEP VALLEY アグリテック集積宣言』を行い、全国に先駆けて農業課題を解決する技術（以下、アグリテック）やその技術を持つ企業を誘致する取り組みを行っています。

取り組みの一つとして行っているのが、令和7年で7回目の開催となったビジネスコンテスト『DEEP VALLEY Agritech Award』（以下、アグリテックアワード）です。このコンテストは、農業課題などを解決するアグリテックを表彰する取り組みで、実証実験を行うことができる市内協力農業者とのマッチングや出資などを通じて、受賞者を支援するものです。また、令和6年からは、米国ノースダコタ州のアグリテック分野のイノベーション促進機関『Grand Farm』とパートナーシップを結び、実証実験場の使用や関係企業とのビジネスマッチングを行うなど、受賞者の海外進出も支援しています。

これまでのさまざまな支援により、7回のアグリテックアワードの開催を通じて、173社からアグリテックに関するアイデアが提案され、5社への出資を実施しました。また、国の支援の下、5件のスマート農業の関連プロジェクトが市内で行われるなど、農業課

今年度で7回目の開催！
DEEP VALLEY Agritech Award

『アグリテックアワード』は、市内の農家が抱える農業課題の解決にとどまらず、食品の製造から流通、消費など『食』を取り巻く幅広い分野を対象に、アグリテックやアグリテックに関するアイデアの創出と社会実装を目的としてスタートしました。

先進的・挑戦的なアイデアを募集

令和5年からは、生産現場に限らず、農産物全体の付加価値向上などのビジネスモデルの提案まで対象を拡大し、令和6年からは『農業×〇〇＝未来』をテーマに、先進的かつ挑戦的なアイデアも積極的に受け入れています。



スマート農業とは
農林水産省によると、『ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現するなどを推進している新たな農業』と定義されており、主に農業の生産現場でデジタル技術を活用するものです。



アグリテックとは
農業を意味する『Agriculture（アグリカルチャー）』と技術を意味する『Technology（テクノロジー）』を組み合わせた造語で、農業が抱える課題を解決する知識やノウハウ、技術を広く指します。

『Agritech Award 2025』最優秀賞受賞企業の提案

企業名 株式会社エンドファイト
提案名 『農業×共生菌＝未来』
提案概要 すべての植物に施用できる森林由来の植物内生菌『DSE』を活用することで、乾燥、高温・低温などの環境ストレス耐性向上などのさまざまな効果が得られ、植物自体の高機能化と生育を促進し、持続可能な『農と食の産業』の未来を創造していきます。



▲受賞した株式会社エンドファイト

そのほか優秀賞を受賞した企業やファイナリストの提案内容、深谷市のアグリテックに関するさまざまな取り組みは、公式ホームページ『DEEP VALLEY』（右記QRコードからアクセス）に掲載しています。ぜひご覧ください。

